

「審美修復治療においてチェアサイドで すべきこととは—Seeing is believing—」

講師：六人部慶彦先生

日時：平成27年10月18日(日)

場所：大阪・ブリーゼプラザ805会議室



福留 健太郎 (大阪府)

平成27年10月18日(日)、ブリーゼプラザ805会議室にて第3回関西支部研修会が開催されました。

講師は六人部慶彦先生、テーマは「審美修復治療においてチェアサイドですべきこととは—Seeing is believing—」という演題で御講演頂きました。

オールセラミッククラウンを用いた審美修復処置において長期的な予後を安定させるために、プロビジョナルレストレーションの重要性、subgingival contourの調整法、支台歯形態、シェードテイキング、接着法等多くの内容について症例を通して御講演頂き、数多くのことを学ぶことができました。

中でも私が感じたことは、より良い審美修復治療を行うためには健全な歯周組織の構築も重要ですが、そのためにはいかに歯科医師が歯科技工の知識が必要であり、ラボサイドへの情報伝達を行うのが重要であるかということが分かりました。

数多くの症例をご提示頂き、歯科医師としてよりよい審美修復を行うために何をすべきか、またいかにより歯科技工士の立場に立って審美修復治療を考えなければならないのかということ等を学ばせて頂く機会を与えて頂き心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



第3回 関西支部研修会／CISJ

六人部慶彦先生が歯科医師10年目の記念に即充レジンとご自身が焼いたポーセレンで何ヵ月もかかって作成したもの

